

# 留学生座談会

関西大学理工系学部では、海外の大学と部局間協定を結び、短期留学生を受け入れている。今年度はアメリカ合衆国から5名の留学生が訪れ、KU-SMART プロジェクトにも関わる研究に励んだ。



写真 左から

聞き手  
伊木 貴子  
広報URA

マッケンジーさん  
McKenzie Fletcher  
アメリカ・クレムソン大学  
バイオエンジニアリング専攻

マーレンさん  
Maren Downing  
アメリカ・クレムソン大学  
バイオエンジニアリング専攻

イザベルさん  
Isabel Mayo  
ノースカロライナ州立大学  
医用生体工学専攻

ヘイデンさん  
Hayden Pagendarm  
アメリカ・クレムソン大学  
バイオエンジニアリング専攻

ランスさん  
Lance Sweatt  
アメリカ・クレムソン大学  
電気工学専攻

## —なぜ留学先として関西大学を選んだのですか？

**ヘイデン** 僕は、去年の秋に大学で長富次郎先生の授業を履修したことがきっかけです。先生の授業がとても面白く、色々とお話を伺ううちに関西大学の短期留学プログラムを紹介され、留学を決めました。



**マーレン** 私はスペイン語が得意で、コロンビアとスペインに留学した経験があります。次の留学先は英語圏・スペイン語圏でないところが良いと思い、日本を選びました。大阪にある関西大学を選んだのは、首都の東京では人口が多いぶん英語が話せる人も多く、必然的に英語に囲まれる生活になってしまうと思ったからです。

**ランス** 僕は、実は東北地方にも留学した経験があります。日本が好きで、今度は関西地方に行ってみたくて関西大学を選びました。この夏（2018年）には帰国しますが、いつかまた日本に来たいです。

## —携わった研究について教えてください。

**マッケンジー** 宮田隆志先生の研究室に配属されました。研究テーマは、二重刺激応答性ポリマーの開発でした。



**イザベル** 大矢裕先生のもとで、温度応答性

のインジェクタブルポリマーの研究をさせてもらいました。母国の大学でも生体医学を専攻しているので、私にとっては身近でとても興味深いテーマに携わることができました。

**ヘイデン** 僕は葛谷明紀先生の研究室でDNAヒドロゲルの研究をしていました。母国の大学での専攻は技術計算だったので未知の分野へのチャレンジになりましたが、面白かったです。

## —来日前に期待したことはありますか？来日してどうでしたか？

**マーレン** 人々がとても親切で驚きました。日本人はあまり話さない・積極的に交流しないイメージがありましたが、実際はとてもフレンドリーで、英語が流暢でなくても一生懸命伝えようとしてくれました。

**ヘイデン** 僕を指導してくれた先輩は、研究のことだけでなく日常生活の面においても助けてくれて、とても頼りになる方でした。また、研究室には英語が苦手な人もいたのですが、それでも僕と積極的に話そうとしてくれて嬉しかったです。

**マッケンジー** 週末には、大阪市や京都方面にも少し足を伸ばすことができました。特に京都は景色が美しく、建造物などに歴史が感じられ、楽しかったです。



## —関西大学の研究環境はどうでしたか？

**マッケンジー** 興味深いテーマに携わることができ、先生もとても親切でした。週に6回も研究室に通う人もいて、日本の皆さんはとても熱心だなと感じました。また、研究にはregulation（規則）がつきものですが、日本とアメリカでは服装の規定などの面で少し違うなと感じることがありました。その点も興味深かったです。

**イザベル** 環境も研究テーマも、素晴らしかったです。関西大学で取り組んだテーマは、本当に面白かったです。母国に戻ってから続けられる分野のテーマなので、ぜひ帰国後も研究を続けていきたいと思っています。



**ランス** 留学生の僕たちがいることで、研究室全体が英語で意思疎通を図ってくれたので、居心地の良い環境で学べました。これは僕の考えですが、留学というのは単に本人が学ぶだけでなく、留学生が留学先に刺激を与え、国際交流を深めていくという側面もあると思います。そういった意味では、今回の自分たちの役割は果たせたのではないかと感じています。



(7月18日、岩崎研究室にて)